

## 高浜3号機でプルサーマルが開始されたら・・・

使用済MOX燃料の行き先はあるの？

若狭の豊かな自然が汚染されてしまうことはないの？



福井県 高浜町 明鏡洞

# 使用済MOX燃料の行き先はない

## プルサーマルを急ぐ必要はありません

## このままでは、高浜町が核のゴミ捨て場にされてしまいます



関西電力は、12月初めにも高浜3号機にMOX燃料を装荷しようとしています。12月末に原子炉を起動し、来年1月末にプルサーマル本格運転を始めようとしています。しかし、プルサーマルだけを急ぐ必要はなにもありません。

なぜなら、使用済MOX燃料を運んで再処理するはずの「第二再処理工場」をどうするかを検討が大幅に遅れるからです。その遅れは、六ヶ所再処理工場の試運転が、ほぼ完全にいき詰まっていることからきています。

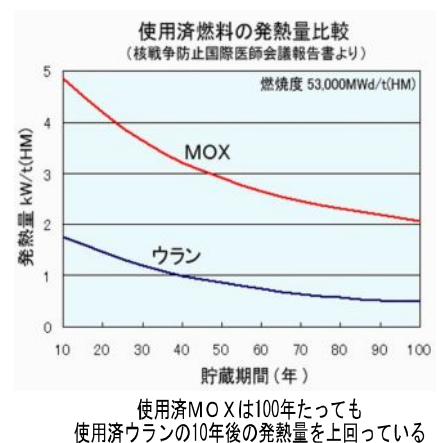
青森県にある六ヶ所再処理工場は、ウランの使用済核燃料の再処理工場です。しかし、試験終了は2年も延期され、2012年となりました。再処理の最終段階で、猛毒の放射性廃液をガラス

固化する技術で完全に行きづまっており、解決の目処はたっていません。

また、原子力委員会の近藤委員長は最近、使用済MOX燃料を再処理する「第二再処理工場」について、「これから10年で検討する」と述べました(9月10日)。これまでの国の政策では、「第二再処理工場」は「2010年頃から検討を開始する」となっていました。それが、検討にまだ10年もかかるというのです。通常の使用済燃料の再処理もうまくいかないのですから、使用済MOX燃料の再処理など夢物語です。

このままプルサーマルが開始されれば、使用済MOX燃料の行き先はなく、高浜町がやっかいな核のゴミ捨て場にされてしまいます。

原子力安全・保安院は、8月3日の市民との交渉で「プルサーマル開始と使用済MOXの処分問題は別」だと表明しました。核のゴミの処理方法が決まらないのに、プルサーマルを開始するのは、あまりにも無責任ではないでしょうか。



プルサーマルとは、ウラン燃料を燃やすように設計された通常の前装で、プルトニウムを含むMOX燃料を燃やす計画です。安全余裕が減ることは国も認めています。本来の設計に反する危険な運転を無理に行う行為です。

# 高浜町に半永久的に置かれます

## 原発プールの安全は確保されているのでしょうか？

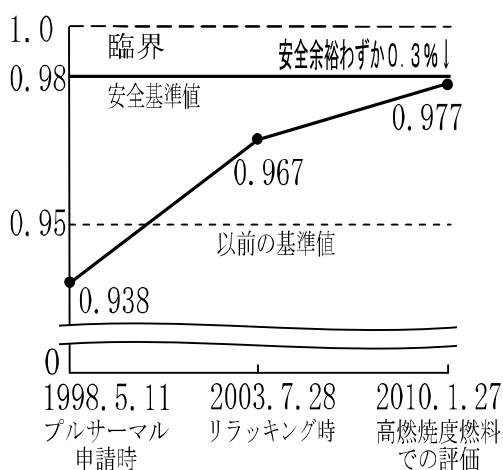
プルサーマルで生み出される使用済MOX燃料は、高浜原発の使用済燃料プールで保管され続けます。使用済MOX燃料は、通常のウラン燃料より発熱量が多いため、50年以上はプールで保管する必要があります。高浜原発が寿命を終えても、原発プールだけは居座り続けることになるでしょう。

### ●プールで臨界事故を防ぐ・・・しかし国は具体的基準をもっていません

原発プールでは、1999年の東海村JCO事故のような臨界事故が起きてはなりません。国の安全委員会の指針では、使用済燃料プールは「想定されるいかなる場合でも、臨界を防止できる設計であること」と決められています。しかし、保安院に確認すると、「臨界を防止する」ための具体的基準は持っていないということでした。国は、自らの具体的基準も持たずに、電力会社が出してくる数値を確認していただけでした。これで「国が安全性を保証している」といえるのでしょうか。

### ●臨界事故の危険はないの？ 基準を緩和しても、安全余裕はわずか0.3%

関西電力は1998年に、高浜3・4号機の使用済燃料プールについて、臨界に達しないための安全基準値を0.95から0.98に引き上げています（1.00が臨界値を示します）。その



後、そのプールは、満杯に近づいたためにリラッキング（ぎゅうぎゅう詰め）工事が行われました。また、高浜1・2号機で使用する高燃焼度燃料の使用済燃料を3・4号機のプールでも保管します。

今年1月の安全委員会に出された資料では、これらを勘案した臨界に達しない評価値は0.977となっています。図のように、評価値はどんどん大きくなっています。それだけ、危険な状態に近づいているのです。緩和した基準値0.98と比べて、評価値0.977の安全余裕はわずか0.3%しかありません。安全余裕は切り縮められています。このようにギリギリの状態で、地震が起きた場合等に臨界事故が起きる危険はないのでしょうか。

評価値0.977は、以前の安全基準値0.95をはるかに超えています。実態が基準を超えそうになるからといって、基準を緩和することが許されるのでしょうか。東京電力や中国電力などは、現在も0.95を採用しています。

## 米国では、原発プールから放射能汚染水が漏れて環境を汚染



### 高浜原発でも、同じような漏れを防ぐことはできません

原発の老朽化が進む米国では、使用済燃料プールや地下に埋設された配管から放射能汚染水が漏れる事故が多発して、大きな問題となっています。

微量の漏れが、気づかれないままに、長期間にわたって続き、結果として大量の放射能汚染水が漏れ出し、土壌や地下水等の環境を汚染しています。

2005年	ニューヨーク州のインディアン・ポイント2号機でプール水漏れ 1日に漏れた量は約10リットルと微量 プールのコンクリートのひび割れを通して地下に長期に漏れい。環境を汚染。
2002年	ニュージャージー州のセーレム1号機でプール水漏れ プールに内張されているステンレス製のライナーの裏には、漏れを検知する溝があったが、この溝がホウ酸等で詰まり、少なくとも5年間漏れが続いた。地下水のトリチウムの濃度は、国の地下水基準を超えていた。

関西電力は、原発プールの管理として、「プールの水位が保たれていればいい」として、微量な漏れの管理は基本的に行っていません。また、古くなったプールのコンクリートも検査していません。定期検査でもプールの検知溝などは検査していません。巡視をするだけで、米国で起きているような微量な漏れを防ぐための対策はありません。

実際に日本でもプール水の漏れは起きています。2005年には六ヶ所再処理工場のプール等で水漏れがおきています。高浜原発は本当に大丈夫なのでしょうか。



このような状況でプルサーマルが開始されれば、将来にわたって高浜町の豊かな自然環境が汚染されてしまうのではないかと心配です。

関西と若狭地方は、夏は海水浴に、そして古くから鯖街道の名があるように「鯖寿司」や「若狭ふぐ」等の食を通じて、豊かな自然の恵みでつながっています。関西の私たちはそのことに感謝すると同時に、若狭の豊かな自然が、プルサーマルによって壊されることのないよう強く望んでいます。

現在と将来の高浜町の環境を守るため、子や孫たちに豊かな環境を残すため、使用済MOX燃料の処分の方法や原発プールの安全性について慎重な検討が必要です。少なくともそれまでは、MOX燃料の装荷を中止すべきではないでしょうか。

プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会

福井県三方上中郡若狭町気山145-6-1

グリーン・アクション

京都市左京区田中関田町22-75-103 TEL 075-701-7223 FAX 075-702-1952

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会

大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL 06-6367-6580 FAX 06-6367-6581